

メンタルが強いので

第 18 期 OG 芝田 朱莉

社会人 1 年目は、週 5 勤務の辛さを痛感した年だった。配属店で新卒は私 1 人であるので、業務内外問わず何かと気を遣うべきなのだろうが、メンタルが強いので何もしていない。定時のチャイムが鳴ると同時に、誰よりも早く「お疲れ様です」を残して退社するので、一時期「早着替えの芝田さん」という渾名が付いていた。飲み会もコロナウイルスのお陰で 1 度もないのでありがたい。残業も 4 月から合わせて 10 時間もしていないだろう。そのようなゆるふわ OL であっても、「仕事行きたくない、客爆ぜてみんないなくなってほしい」が口癖で、仕事は辛い。そのため、同期のブラック勤務ぶりは、聞くだけで震え上がってしまうほど恐ろしい。小野ゼミの活動はどんなに長時間でも楽しかったな、と、(若干思い出補正がかかっているであろう) あの日々を恋しく思う。

結論、今の私にとって、仕事は生活の中心に据え置けるほど、熱中できるものではないようだった。となれば、何かしら小野ゼミの後釜となる、熱中できるものを探す必要があるのだが、これが意外と難しいのである。年を取ると挑戦することに億劫になる、という事実を突きつけられた(初めての OB・OG 会誌で、諸先輩方の目を見て言えることではないが)。平日は定時退社するにもかかわらず、何もする気力がなく 20 時すぎには就寝している。超健康的、いや、一周回って病的かもしれない。唯一の楽しみは、楽天証券で日本株 4.3 倍ブルを買ってお小遣いを増やすことくらい。そのような状況なので、このエッセイも畑の肥やしにもならない出来栄えとなる予感がしている。しかし、私はメンタルが強いので気にしない。メンタルが強いので、放っておけばいつかはまた、かつて小野ゼミに捧げた熱意が、別の形で蘇ってくれるだろうと信じている。いわば今は、休耕期間ということだ。

かつて小野先生がおっしゃっていた、「ハムスターの回し車は、人間という上位者から見れば全く無意味な活動で、その活動で変わることは何 1 つない。人生も同じで、どの回し車を選んだとて、回し方を選んだとて、上位者から見れば全てが全くの無意味である。しかし、そうと悟りつつも、何も産まないと分かりつつも、自分なりに最も納得できる形を見つけて、人生を終えるまで粛々と回し続けることが大事である」というお言葉が、何気ない場面であったにもかかわらず、ずっと心に残っている。焦らなくてもいい、私はハムスターのように可愛いものだから、ということだ。

それは冗談だとしても、人生は 100 年時代、今から畑づくりをしたとしても、余裕で間に合うどころか、気に入らなければ何度でも焼き払えるくらいの時間とメンタルはある。おまけに、センチメンタルになった時に泣きつける同期や先輩方(、そして彼氏! 1 年記念となりました、先生)もいる。

しばらくはゆるふわ OL をしてやるかな、という気持ちでいる。



第 18 期と第 19 期と
(著者は右下)



第 18 期加藤・周・都竹と第 16 期木幡さんと
(著者は左)